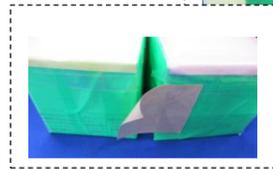
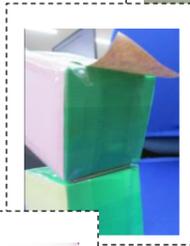




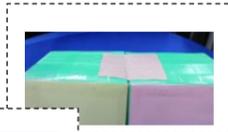
大変そう。
切ってあげるよ。



③



②



①



どうやって
裏側に貼ろうかな？



(舟の大きさは)先生の手で測ったら？



本当に、プールに入るのかな？

CASE 8
5歳児

本当に、プールに入る？

(幼児の実態)

6月、暑くなって園庭にプールを準備する季節になりました。昨年度、年長児の遊ぶ様子を間近で見ている年中児が、「みんなで乗れる舟を作りたい。」と、保育者に相談してきたことで始まった活動です。材料は牛乳パック。昨年の舟より大きくしたいと牛乳パックをひたすら繋げていくことをしていました。本日は、全員登園する10時過ぎに保育室で、舟チームとクジラチームに分かれて舟作りの計画を話し合いました。

協力園

幼保連携型認定こども園
ひめやま幼稚園

保育者は、昨日までに出来上がった舟を見せながら「昨日はここまで出来たね。今日は、何処までするの？」と聞く。子どもたちは、「まだ、大きくする！」「100までする。」と、答えます。保育者は更に「それじゃ、何人位乗られるようになるの？」と、聞き返しました。すると、「幼稚園のみんな。」と答えます。保育者が「それ位大きいのにするのね。何処に浮かべるの？」と話すと、子どもたちは、「プール！」と答えますが、口々に「でも、あんまり大き過ぎたらプールに入らん。」と「順番、順番。」と、考えたことを言い始めます。保育者は、再度舟を見せて、「これが入るか、入らないか、どうすれば分かるのかな？」と、問いかけました。「それ、1回切ったらどう？」「最初、プールを覗いてみて、小さすぎたとか測って作ったらいい。」の考えが出ました。保育者は「どうやって測ったらいいの？」と、また問いを出しました。子どもたちは「瞬考え込みました」が、保育者が牛乳パックの舟を持ち上げた時に手を広げた長さと同じ位だったことを思い出したのでしようか、1人の子どもが、「先生が手を広げたぐらい。」と、言いました。保育者は、手を広げて舟を持ち、「先生の手をいっぱい広げた大きさでいいね。」と、子どもたちと確認し合いました。保育者は、実際に子どもたちと園庭のプールに行き、保育室でやってみたようにプールの横幅に手を大きく広げてみました。子どもたちは「わー、入る！」と、歓声を上げ拍手をして喜びました。

子どもたちは、保育室に戻ると直ぐに、牛乳パックをガムテープで付け始めました。みんなが勢いよく作業している中、牛乳パックの上にガムテープを付けた子どもが、じっと貼り付けた所を見ていました。すると、牛乳パックに貼り付けたガムテープ①を蝶つがいのように使い、付けた牛乳パックをパタンと上げました。

ガムテープを牛乳パックの底の長さに切り、上にきた面にそのガムテープの幅の半分を貼って②、残りの半分が、底の面にくるように、舟を少し持ち上げました。そつと牛乳パックを元に戻す③と、ピタリと底に貼れました。

ガムテープを貼っている友だちに「うん、その位。それでいい。」と、言っていた子どもがいました。ガムテープを丁度いい長さに切りながら、舟の底にも丁寧に貼っている友だちの様子を食い入るように見ていましたが、黙ってガムテープを切って手渡し協力しようとする姿が見られませんでした。

子どもたちは、自分たちの遊びに必要な長さや大きさを比べたり、イメージする大きさに作っていったりするような主体的な遊びの中で、数量や図形への興味や関心を深め、感覚が磨かれていくようです。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」

言葉による伝え合い
協同性
思考力の芽生え
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

事例から見られる10の育ち
数量や図形への関心・感覚

『大きくしたい』という、子どもたちの漠然とした考えが、保育者の質問で、『測る』という比較方法に気付いていった。舟の一端を保育者の手を広げた長さで測り、プールの側面と実際に比べることで、物の長さや大きさの感覚をもつてきているのではない。

遊び込む中で、牛乳パックの形状に気づき、出来上がりを予想し、作り方を考えながら完成させていく。これは、思考力の育ちにもつながっていくと思われる。

事例から見られる10の育ち
思考力の芽生え

興味のある保育者や友だちの話を聞き、自分の考えを伝えている。また、日常的に使う『測る』という言葉だが、保育者にその方法を問われることで、『測る』道具を考えていった。実際に測ってみると、自分たちの予想通りの結果となり喜び合ったことは、思考するエネルギーになったと思われる。

毎日遊ぶ中で、牛乳パックの形状を感覚的に分かっていたので、丈夫で綺麗に仕上がる自分なりの方法を試していたのではないかと考える。

数量や図形などへの関心・感覚環境構成のポイント

- 様々な物に触れ、形や性質に気付き、確かめながら遊べるような豊富な材料準備。
- 子どもたちに実物を見せることで、身近な道具を使って、大きさや長さを比べる方法に気付かせる言葉かけ。
- 身近な物や道具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連性を考えたり、試したりして工夫して遊べる環境。